

令和元年度 学校関係者評価のまとめ

県立明石高等学校

1 評価機関 学校評議員会

2 評価者 学校評議員 6名

3 開催日時 令和2年2月25日(火) 15:30~16:30

4 学校自己評価に対して出された意見

- ・企業との連携はとても良いこと。企業の商品開発には大学が関係している。自分たちのデザインをプレゼンして、新聞等広報に繋がれば、それがやる気・勉強への意欲に繋がる。
- ・大学入試はどこに何人が通ったではなく、その先の進路はどうなったかが大事である。どこの大学に行ったら良いではなく、先(就職)を見据えた目的意識を持続させる必要がある。
- ・eポートフォリオの活用も入試だけを目的にしないで先を見据えることが大切である。就職の際、企業はエントリーシートで半分落とすということもあり、自分自身を表現する能力が必要である。
- ・AIに向けての能力を高めることが必要である。大阪ではタブレットを全員が持ち、アクティブラーニングに取り組んでいる。プレゼンに使い、特色づくりにもなる。
- ・大学合格は数字がものをいうので無視はできない。受験制度の変更について、記述式など子供たちはどこまで理解しているのか。具体的な入試に関する内容は保護者にも伝える必要がある。
- ・明石高校の応援団が見ている。信号を守るなど規則正しい生徒が増えている。今の学校はとても良いと思う。心配ない。
- ・課題研究発表時に外部の方を呼べばいい。中学生に対してアピールできる。
- ・進路について 来年度の全容は見えていますか。
- ・防災訓練の際、明高の先生が来てくれているという空気ができた。
- ・地域に足を運ぶことが大切である。幼稚園・小学校なども含め、地域は若い力を求めている。
- ・ある看護師養成の大学は偏差値が低い为国家試験に受かる生徒が多い。やりたいことがある、だから勉強する、に繋がる。学校の先輩に続き社会のリーダーになる、という誇りを持たせられるとよい。それが校風になる。